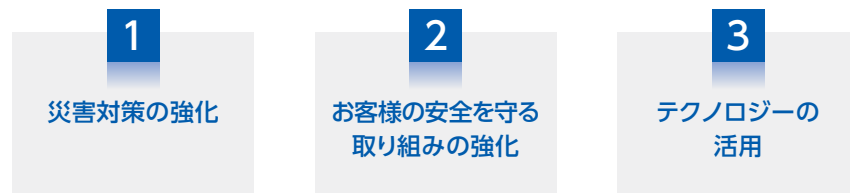


安全・安心

ミッション

災害対策や確実な技能伝承を通じ、公共交通の使命である「安全・安心」を確保する。

重点施策



安全方針・安全目標・安全重点施策

2025年度は、中期経営計画「D2プラン(2025～2027年度)」初年度であり、長期経営課題の根幹と位置付けている「安全・安心」を踏まえ、本計画の重点施策である「成田空港の更なる機能強化への対応」「災害対策の強化」「お客様の安全を守る取り組みの強化」及び「テクノロジーの活用」に基づき、安全方針・安全目標・安全重点施策を定め、安全性向上の取り組みを推進しました。

>>> 安全方針

「京成グループ経営理念」・「京成グループ行動指針」

>>> 安全目標

業務の本質理解と主体的な見直しによる安全管理体制の強靱化

>>> 安全重点施策

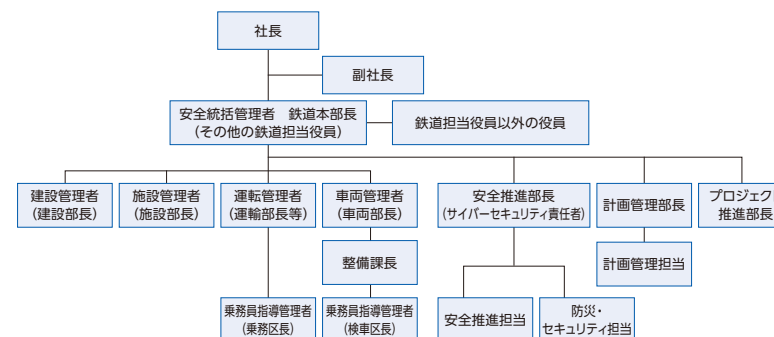
- ① ハード面(鉄道施設・車両)の安全性向上及びソフト面(規程・マニュアル・システム・対策等)のレベルアップ
- ② 一人ひとりの「安全最優先」の意識の徹底・確実な業務知識継承に向けた教育の実施
- ③ 異常時対応力の強化に向けた訓練の実施

- ④ ヒヤリハット情報等のデータの有効活用及び部門の垣根を超えたコミュニケーションの充実
- ⑤ ICT機器や新技術活用による安全性の向上・技術継承に向けた取り組みの推進

安全管理体制

>>> 安全管理体制図

当社は、2006年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理体制を構築しています。なお、2026年4月に安全管理規程の一部改正を行い、サイバーセキュリティを確保するための事業の実施等について追記するとともに、サイバーセキュリティ責任者として安全推進部長を任命しました。

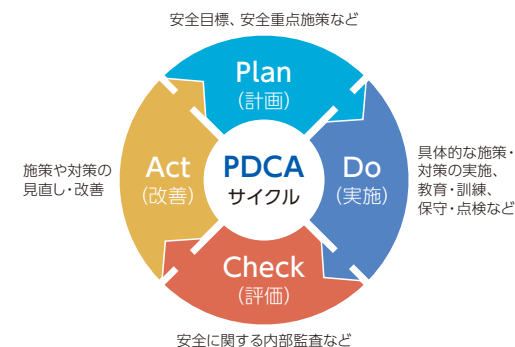


その他具体的な管理担当者の役割、安全管理方法等については、「安全報告書2026」をご覧ください。

WEB https://www.keisei.co.jp/keisei/corporate/sustainability/dl/safety/safety_report_2026.pdf

>>> 安全管理の方法

安全方針及び安全目標のもと、輸送の安全を確実に確保・向上させるため、安全統括管理者を中心にPDCAサイクルにより安全管理体制を強化するよう取り組んでいます。特にCheckとActに力点を置いて取り組むことで、安全管理体制のスパイラルアップを図っています。



安全・安心

社長・安全統括管理者等による積極的な職場巡視

社長、安全統括管理者や鉄道担当役員及び鉄道本部の各部長は、さらなる改善点を探るため、随時、現場の第一線に出向き、輸送の安全確保の状況確認や係員とのコミュニケーションを図っています。



社長巡視

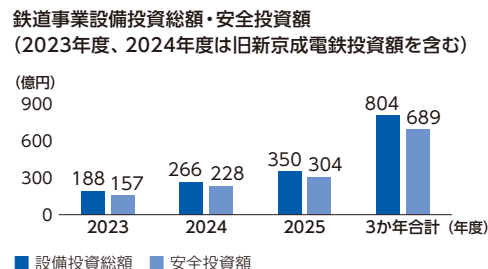


職場巡視（安全統括管理者）

具体的な取り組み

>>> 安全対策への投資

2025年度は、お客様により安全・安心にご利用いただけるよう、法面補強工事・耐震補強工事等の安全対策の強化、駅施設のリニューアルやバリアフリー化等のサービス向上に取り組ましました。



通勤型車両の防犯カメラ設置完了

テロ等の危険行為に対応するため、2019年度より実施していた通勤型車両の車内への防犯カメラの設置が、2025年度に完了しました。「3200形」では、車内非常通話装置と連動させることで、客室内の防犯カメラ映像を乗務員室で迅速に確認できるようにしています。

このほか、車両基地等においてもカメラ監視により警備強化を実施しています。



災害対策の強化

当社では、鉄道における安全・安定輸送の確保のため、高架橋・橋脚・駅舎の耐震補強工事や、集中豪雨等により法面（線路脇斜面）の土砂が流出することを防ぐための補強工事を実施しています。

法面補強工事

鉄道線路の盛土部、掘割部の線路脇には法面と呼ばれる斜面が設けられます。大雨等によって、この法面が崩れる土砂災害を防止するため、コンクリートフレーム等を使用した補強工事を順次進めています。



耐震補強工事

2011年に発生した東日本大震災を踏まえ、高架橋以外にも橋脚、トンネル中柱、駅等の構造物の耐震補強工事を順次実施するとともに、旧耐震基準により施工された箇所の調査診断を含め、地震に対する安全性の向上に努めています。



高架橋のコンクリート部材等剥落対策

地震等により、高架橋・架道橋からコンクリート部材等が剥落しないよう、順次ネットの取付を推進しています。



京成本線荒川橋梁架替工事

京成本線荒川橋梁付近の堤防は広域地盤沈下の影響で、周辺堤防より低い状態にあり、荒川増水時には橋梁部分から水が溢れて堤防が決壊する恐れがあることから、堤防をかさ上げするための橋梁架替工事を推進しています。2025年度は、主に新設橋梁の基礎杭工事のほか、既設盛土の土留工事等を実施しました。



安全・安心

■ お客様の安全を守る取り組みの強化

当社では、鉄道を利用するお客様の安全を守るための取り組みとして、施設、車両設備、災害発生時の社内連絡体制等、多面的に取り組みを強化しています。

鉄道

葛飾区内連続立体交差事業

葛飾区内(四ツ木駅～青砥駅間)の連続立体交差事業を推進しています。この事業が完了すると平和橋通り等の沿線にある11か所の踏切が廃止され、道路・鉄道それぞれの安全性が一層向上するほか、踏切による交通渋滞解消が期待されます。2025年度は、仮上り線切替に向けた準備工事を推進しました。



ホームドア設置の推進

駅ホームからの転落や列車との接触による事故を防止するため、青砥駅、京成高砂駅など8駅のホームドア設置を推進しています。2035年度末時点でのホームドア(固定式ホーム柵除く)総整備数は、18駅55番線を目指します。



駅施設リニューアル

京成中山駅、京成大和田駅、新千葉駅、大森台駅、二和向台駅の5駅のリニューアル工事を行いました。併せて、ホーム上家等の耐震補強工事、バリアフリー化工事(新千葉駅・大森台駅)を実施し、お客様の安全性と利便性の向上を図りました。地域の歴史や景観を取り入れた内装デザインや、千葉県産木材の使用など、地域との連携も強化しています。2026年度は、松戸駅の工事が完了するほか、京成稲毛駅、みどり台駅、京成佐倉駅の工事を引き続き推進します。

安全意識の定着に向けた教育訓練の充実

「鉄道の安全は人が創るものであり、全社員が一丸となって京成グループの安全を創りあげていく」という意識を共有する」という目的で安全共創室を設置し、京成電鉄及び京成グループ社員を対象とした安全啓発研修を実施しています。

映像による教材をはじめ、当社及び他社において発生した様々な事例も参照しながら、受講者一人ひとりが自身の安全に対する思いを見つめ直す機会とし、これまで第1クールとして延べ3,800名が受講しました。2026年4月からは、研修内容をリニューアルし「自発的・臨機応変な対応力を身に付ける」をテーマとした第2クールの研修を実施しています。

鉄道施設の改良・更新

京成線と北総線の全線で、デジタルATS(Automatic Train Stop、自動列車停止装置)の「C-ATS」整備が完了しました。「C-ATS」は、従来のものよりも細かく列車の速度制御が可能になるため、保安度が一層向上します。また、安定的な電力供給を図るために日暮里変電所や二和変電所の設備更新を実施しているほか、青砥駅において転てつ機と信号機を安全に連動させる装置の更新が2026年度に完了します。

安全文化の醸成

事故を起こすおそれがあり、ヒヤリとした、事故につながる要因に気づいてハッとした、といった事例は「ヒヤリハット報告」として、全てシステムに登録を行い情報共有し、作業マニュアルや設備改善に活用しています。また、現場における輸送の安全確保に関わる活動の積み上げによるボトムアップと部門間の情報共有を強化することを目的に、グループ会社も含めた安全推進発表会を毎年度実施しています。加えて、京成グループ3社(京成電鉄・北総鉄道・京成電設工業)では、各社間の技術交流を目的とした京成グループ技術発表会を実施しています。実技による作業内容を発表し、相互に評価することで、技術力向上と連携強化を図っています。

従業員の声

2025年度ヒヤリハット活用優秀職場賞 施設部 高砂保線区

駅間での作業後に臨時信号機を設置した際に、徐行予告信号と徐行信号の順番が逆であったため、「ヒヤリ」とした事象がありました。臨時信号機の裏側に名称や設置する順番を掲示することにより再発防止策を講じ、また他職場へも同種事象発生防止のための水平展開を行うことで、全体の安全性向上に貢献し、2025年度ヒヤリハット活用優秀職場賞を受賞しました。今後もヒヤリハット報告をしやすい環境を整え、保線区全体で「危険の芽」を共有する文化の熟成に努めてまいります。



施設部 高砂保線区長
山本 亮也

安全・安心

グループ

異常時対応訓練

京成グループは、自然災害や事故等、万一の不測の事態に備えた各種訓練を行っています。運輸業各社では、「異常時総合訓練」や「バスジャック対応訓練」等を実施しています。社内外の関係者への連絡通報、お客様の誘導案内、事故現場の復旧作業等を各部門が協力し定期的に訓練しています。



スカイライナー異常時合同訓練



バスジャック対応訓練

リブレ京成店長・従業員が熱中症対策アンバサダー®資格取得

スーパーマーケット「リブレ京成」を運営する京成ストアでは、店長含む30名の従業員が「熱中症対策アンバサダー®」資格（主催：大塚製薬（株））を取得しました。熱中症に関して学んだ知識を生かし、正しい熱中症対策の行動を呼びかけて、お客様の安全確保に努めています。

運輸業におけるその他の取り組み

京成グループは全国の交通事業者と共に、「声かけ・サポート」運動や「こども110番の駅」等を実施し、全てのお客様に安全・安心、そして快適にご利用いただける環境の整備に努めています。また、バス各社では「バスドライバー異常時対応システム」搭載車両を導入し、安全性の更なる向上を図っています。加えて、運転士の健康起因事故防止のために、定期健康診断のほかに睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査や脳ドック等も実施し、運転士の健康増進と安全運行体制の強化を図っています。



バスドライバー異常時対応システム

テクノロジーの活用

京成グループは、テクノロジーの進歩に伴い、テクノロジーの活用を通じて、お客様・事業エリアのみなさまの安全・安心の確保に努めています。

鉄道

ICTの活用

当社は、（株）日立製作所の移動制約者ご案内業務支援サービスを導入しました。主に電話等で共有されていた車いすや白杖をご利用のお客様の乗降サポート情報を、スマートデバイス上で共有することで、駅係員の業務効率向上と、より安全・安心でスムーズな移動環境の実現を図ります。2026年3月には、相互直通運転を行っている京成電鉄、北総鉄道、京浜急行電鉄（株）、都営地下鉄の4社局間での連携が始まり、より効率が向上しました。また、当社は、介助やサポートを必要とされるお客様の移動をスムーズにする「Universal MaaS」の「一括サポート手配」実証実験の連携事業者となっています。



グループ

安全運転訓練車

京成バス千葉セントラルは、バス乗務員の運転技量や危険予知能力の向上を図るため、安全運転訓練車を導入しています。この車両では、運転中のアクセル開度、エンジン回転数、ギア位置、揺れ、燃料消費量、車間・前方・側方距離等の走行データと、運転者の視線の動きや右足の動きを集録するシステムを搭載しており、得られたデータを基に、乗務員一人ひとりの特徴に基づいた教育と訓練を行っています。



「落とし物クラウドfind」を京成バス千葉ウエストで導入

京成バス千葉ウエストは、「落とし物クラウドfind」（（株）findが提供）を導入し、京成バス千葉ウエストが運行するバスでお預かりしたお忘れ物が、チャットでお問い合わせいただけるようになりました。多言語対応で24時間お問い合わせを受け付けることができ、インバウンドをはじめとしたお客様へのサービス向上と、落とし物に関する業務の効率化が見込まれています。